

大学の世界展開力強化事業（平成28年度採択）中間評価結果

大 学 名	東京大学
整理番号	A-①-1
事 業 名	北京-ソウル-東京（BESETO）ダブル・ディグリー・プログラム：国際・公共政策共同研究

大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

（総括評価） <b style="font-size: 2em;">A	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
（コメント）	
<p>本プログラムは、東京大学、北京大学及びソウル大学校の3大学による共通科目の開発や交換留学プログラムとダブル・ディグリープログラム、ジョイント・ディグリープログラムで構成する共同教育を開発することによって、公共政策の分野における東アジアのリーダーとなり得るグローバル人材の育成を目指している。</p> <p>共同教育の効果を高めるために、特にダブル・ディグリープログラムについて、単位換算や認定の方法、相互認定可能科目のマッピング、学期ごとに取得すべき最低単位数等について基本的合意に基づいて進めている点は高く評価できる。また、3大学間共同プログラムの必修科目として、平成30年度から東京大学においてCAMPUS Asia Joint Courseを各大学の教員によるオムニバス形式で実施しており、今後はそれぞれの大学でも実施する予定である。3大学の院長による討論会 BESETO Intellectual Dialogue やシンポジウムを開催するなど、多様な工夫がされている。さらに、学生の国籍により派遣・受入先に一部制限が設けられることもあるが、共同教育における学生の国籍問題の解決に取り組んできた点は、世界的大学・グローバル大学を標榜する東京大学にあって非常に高く評価できる。</p> <p>一方で、交換留学生数は計画通り進捗しているものの、ダブル・ディグリープログラムへの日本人学生の参加が低調であるという課題がある。日中韓のダブル・ディグリープログラムの魅力を高めるとともに、東アジアの公共政策等におけるグローバルリーダーの育成の重要性についての認識を高め、日本人学生の参加を促す工夫することによって、学生にとって魅力あるプログラムとして理解されるよう努力していくことが望まれる。</p> <p>最後に、今後も補助期間終了後の継続的な実施を見据えた事業計画の策定と安定的な財源確保に努め、学内及び関係機関との質保証を伴う国際教育連携の推進と将来の我が国の更なる発展に向け、積極的に事業を展開していくことが期待される。</p>	